

1. 目的と概要

私自身の経験より、学部1年生は学生生活が始まったばかりで周囲に相談事をできる友人ができていない場合がある。その場合、自分一人では解決できない問題に直面したとき解決に時間や労力がかかり、学生生活に支障をきたす場合も考えられる。上記の問題を解決するために、本プロジェクトでは問題に直面している人が気軽に他の人に助案を求められる Q&Aコミュニティサイト（以下「ナルホド香川大学」図1参照）を作成した。



図1. ナルホド香川大学のTOPページ

いつでも質問を受け付けるためにWebを利用したコミュニティサイトを開設した。

サイトURL: <http://naruhodo.nazo.cc/>

サイトは、ユーザから問題や質問を受付ける機能とその問題や質問に対して他のユーザから回答やアドバイス受付ける機能を持っている。このサイトを開設することで、時間や距離を選ばず質問と回答を繰り返しユーザ同士の問題を解決できるようになることを目指した（図2参照）。

現在、90人の登録ユーザがいて80件の質問が寄せられている。また広報活動の結果雑誌の「TJかがわ」に活動内容が掲載、高松ケーブルTVにサイトの告知が放送された。

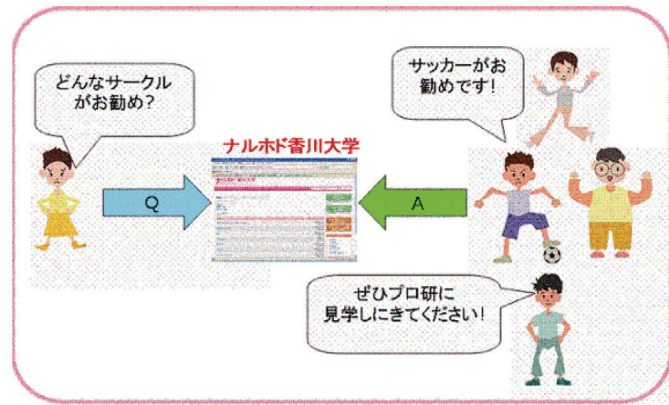


図2. ナルホド香川大学の機能

2. 実施スケジュール

ナルホド香川大学の活動記録を以下に示す。

- 2007年 8月～ サイトの構築の方法の打ち合わせ
- 10月～ サイトの作成と作業メンバー集め
- 11月～ サイトの公開広報活動
(生協PC講座スタッフ (図3参照),
プログラミング研究会, TJかがわ図)
- 2008年 1月～ 広報活動 (高松ケーブルTV)
- 2月～ ポスター作成教育学部キャンパス,
工学部キャンパスに掲示
- 3月～ 広報活動 (毎日新聞社)



図3. 生協PC講座スタッフに対するナルホド香川大学の説明会

3. 成果の内容及びその分析・評価等

サイトを開設してから90人の登録ユーザを獲得した。またサイトにあげられた質問数は80を超えた。またナルホド香川大学の広報活動の結果、以下のようなメディアにとりあげられた。

1. 高松ケーブルテレビ情報チャンネルにて放送2008年 1月21日～ 2月21日
2. TJかがわ Vol.311 pp. 120 2008年 3月号 (図4参照)
3. 毎日新聞の取材(3月中に新聞に掲載予定)



図4. TJ香川の取材(左)と記事の画像(右)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

〈学生に対する効果〉

ナルホド香川大学に寄せられる質問を見ると、大学の予定(テスト、大学院の入試、始業日)や手続きに関する質問が多かった(図5参照)。ナルホド香川大学でその質問の回答を見ることで学生は年間の重要な行事や手続きの方法を知ることができた。



図5. ナルホド香川大学に寄せられた質問と回答

〈大学に対する効果〉

ナルホド香川大学は、現在質問と回答の閲覧に関しては特に制限を課していない。ナルホド香川大学を他の組織から見てもらうことで、より香川大学に興味を抱いてもらえたと思う。

〈社会に対する効果〉

地元の高松自動車学校様やTJかがわ様、高松ケーブルTV様に広報を手伝っていただき、地域の企業との結びつきもできた。また毎日新聞社様の広報活動により、香川大学の精力的な活動を社会の人々に知ってもらえると思う。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

研究や就職活動で忙しい中、このプロジェクトを運営することで私は多くの物を得た。まず最初に作業メンバーを集めることで、私自身が相談事のできる仲間が増えた。また、プロジェクトを進めていくにあたり、私も人のまとめ方と複数人で作業する際に注意すべきことを学べた。他のメンバーも複数人で作業するという体験から、協調性を学べたと思う。他にサイトの構築等で、技術者として必要な能力を高められた。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今年の反省点は質問に回答できた人にたいして報酬を与えられなかったことである。来年にプロジェクト継続が可能ならば、ナルホド香川大学で最も質問に回答してくれた人を表彰するような会を開きたいと思う。

現在のところナルホド香川大学は、Q&Aコミュニティサイトの機能はあるが、使いやすさや新機能等にまだ改良の余地を多く残している。これからは、もっとユーザがわかりやすく、使いやすいようにサイトに新着履歴等表示やアンケート機能を実装していきたい。

またナルホド香川大学上に寄せられた質問に対して回答するたびに回答者に何らかの報酬を与えるようなシステムを作りたい。私の中の考えとして、より多くのユーザを獲得できるようになれば、質問に対して多く答えるユーザには、香川大学の生協で使えるクーポンを提供するシステムがある。この案の実現に向けて今後がんばって行きたいと考えている。

7. 実施メンバー

代表者	日下 大輔	(工学研究科	1年)
構成員	高橋 和麻	(工学研究科	1年)
	岸本 義晴	(工学部	4年)
	鈴木 貴文	(工学部	4年)
	曾原 寿允	(工学部	4年)